

●杉澤家住宅

押熊八幡神社の東方に位置する旧家の屋敷。敷地中央に南面して建つ主屋の周囲に9件を配す。主屋は大和棟^{注1)}の民家で整然とした外観が庄屋屋敷の姿をよく伝える。新座敷は東の庭に面して下屋を付す。北室は内蔵の蔵前に用い、南室は西面に床と付書院を並べ、黒柿の床柱など、瀟洒なつくり。内蔵は家財蔵で軒に鉢巻を廻らし、腰は竖板を高く張り、歴史的な屋敷構えをつくる。セイロ蔵は家財蔵。内壁は厚板を積上げる、いわゆる井籠組^{注2)}の蔵。小屋は曲梁に束を立て野地板を流板に張る。丁寧で特徴的なつくり。井戸屋形は南面西寄りに引戸を開けて中庭への通用口とする。旧家の生活の様相を伝える。北西土蔵は家財蔵で南面東寄りに庇を付し、大きく湾曲する持送^{注3)}で支える。角地に建ち屋敷景観の要となる。材木小屋は北西土蔵に続き、屋敷景観を形成。北門屋は石垣上に建ち、長大な屋敷構えをつくる。味噌部屋及び柴小屋は、小規模ながら主屋東側の屋敷構えの一画を担う。米蔵は北に落棟で納屋を延ばし、西面に一連で下屋を付す。米蔵は和小屋で野地板を土塗とした特徴的なつくり。敷地東側の景観を形成する。

・杉澤家住宅主屋

所在地	奈良県奈良市
建築年代	江戸後期／明治中期・昭和40年代改修
構造・形式・規模	木造平屋建、茅葺及び瓦葺、建築面積155㎡

・杉澤家住宅新座敷

所在地	奈良県奈良市
建築年代	明治33年
構造・形式・規模	木造平屋建、瓦葺、建築面積34㎡

・杉澤家住宅内蔵

所在地	奈良県奈良市
建築年代	江戸末期／明治33年改修
構造・形式・規模	土蔵造2階建、瓦葺、建築面積19㎡

・杉澤家住宅セイロ蔵

所在地	奈良県奈良市
建築年代	明治33年
構造・形式・規模	土蔵造2階建、瓦葺、建築面積25㎡

答申文化財の概要

・杉澤家住宅井戸屋形

所在地 奈良県奈良市
建築年代 明治後期
構造・形式・規模 木造、瓦葺、面積 1 2 m²、井戸付

・杉澤家住宅北西土蔵

所在地 奈良県奈良市
建築年代 明治前期／昭和前期改修
構造・形式・規模 土蔵造 2 階建、瓦葺、建築面積 2 0 m²

・杉澤家住宅材木小屋

所在地 奈良県奈良市
建築年代 明治前期
構造・形式・規模 木造平屋建、瓦葺、建築面積 3 6 m²

・杉澤家住宅北門屋

所在地 奈良県奈良市
建築年代 昭和前期
構造・形式・規模 木造平屋建、瓦葺、建築面積 5 2 m²

・杉澤家住宅味噌部屋及び柴小屋

所在地 奈良県奈良市
建築年代 明治中期／明治後期増築、平成 2 6 年頃改修
構造・形式・規模 木造平屋建、瓦葺、建築面積 2 5 m²

・杉澤家住宅米蔵及び納屋

所在地 奈良県奈良市
建築年代 明治後期
構造・形式・規模 土蔵造及び木造平屋建、瓦葺、建築面積 1 2 0 m²

注 1) 大和棟：民家の屋根形式の一つ。母屋部分を勾配の切妻の茅葺きとして両妻に屋根より高い袖壁（高塀）を付け、下屋部分は勾配の緩い茅葺きとしたもの。

注 2) 井籠組（せいろぐみ）：木材を水平に井桁に積み重ね、隅部で相互に切り欠き交差させて構成した壁体、またはその組み方。

注 3) 持送（もちおくり）：壁や柱の垂直面から、水平に突出させて庇、梁、棚、出まどなどの上の加重を支持する部材またはその構法。

答申文化財の概要

●行者橋

高野街道の一部で、高田川に架かる石造橋。花崗岩を用いた四径間の桁橋。橋桁上に二石からなる梁石をかけて、三筋の桁石を渡し、上部に床石をのせる。全体簡明なつくりながら、街道の歴史的な景観を伝える貴重な石橋。

所在地	奈良県葛城市
建築年代	江戸後期／江戸末期改修
構造・形式・規模	石造桁橋、橋長12m、幅員3.2m

●辰巳家住宅平地門及び塀

旧法隆寺村西里の大地主の屋敷内で、北庭を区画する平地門は薬医門で、腕木の木鼻や斗は雲形組物^{注4)} 風とする。大正期に法隆寺大工によって建設され、当地域らしい復古的な意匠を用いた門及び塀。法隆寺大工が伝統的に生活をしていた地区において、その技術が生かされた建造物の一つとして評価される。

所在地	奈良県生駒郡斑鳩町
建築年代	大正4年
構造・形式・規模	平地門 木造、瓦葺、間口1.7m 塀 木造、瓦葺、総延長11m

注4) 雲形組物：飛鳥様式の雲形の繰形の斗供。法隆寺金堂や塔にみられる。

答申文化財の概要（写真）



杉澤家住宅（奈良市教育委員会提供）



杉澤家住宅（奈良市教育委員会提供）

答申文化財の概要（写真）



行者橋



行者橋

答申文化財の概要（写真）



辰巳家住宅平地門及び塀



辰巳家住宅平地門及び塀